

宮城野区選出

ふれあい通信 夏号

仙台市議会議員

松本由男

よしお

市政報告

政治は生活そのものです!



◎発行人/松本由男(仙台市宮城野区)

〒983-0036 仙台市宮城野区苦竹1丁目8-13(事務所) Tel.022-355-8644 Fax.022-355-8645

活動報告

私の強みとする危機管理の視点及び市民目線の施策提言により、市長に質問を投げかけ、前向きな答弁を得ました。

議会での一般質問等【定例会:令和3年6月】

Q1 東日本大震災10年の総括と記録誌を後世に残すことを提案するがいかがか。

A1 本市は震災から1年と5年間の取組みを2冊の記録誌としてまとめており、この中では復旧・復興のプロセスに留まらず、主な復興施策の総括も行い、熊本市をはじめ他都市の災害時の初動対応や、その後の施策展開に活用されてきました。また、未曾有の被害をもたらした東日本大震災における本市の経験は、救助実施市の制度の実現や既存の民間賃貸住宅を活用した「みなし仮設」の手法の主流化など、我が国の災害法制の見直しや全国の災害対応にも活かされているものと認識をしています。こうした10年間の経験や教訓は、今般作成をした「職員間伝承ガイドブック」に織り込み、本市職員の中での継承を図るとともに、今年度スタートした仙台市基本計画においても、「防災環境都市プロジェクト」として震災の教訓を活かした災害に強いまちづくりに重点的に取り組むこととしました。今後とも、これまで培ってきた経験や教訓を次世代に着実に継承し、持続可能でしなやかな都市環境づくりに力を尽くします。

Q2 海辺の賑わいづくりのための具体的な取組をすべきではないか。

(貞山運河に関する相談窓口の新設を提案する)

A 貞山運河に関しては、これまで様々な視点での相談が寄せられており、施設管理者である国や県を紹介するとともに、内容により都度、担当部署が対応してきました。今後、地域の声を丁寧に向い、関係する局・区がしっかりと連携を図りながら対応します。

(貞山運河の位置づけと海岸公園の今後の取組み等について伺う)

A 震災を乗り越えてきた貞山運河は、海辺の賑わいづくりに活用できる資源であると考えています。本市では、海岸防災林などを含め、緑豊かな水辺の風景を活かしながら、カヌーやボート遊び等が可能な親水護岸などの整備を計画しています。国や県と協議を行いながら、事業を進めてまいります。今後とも、海岸公園の基本計画に基づき、市民の皆様や本市を訪れる方々が水辺に親しんでいただける場となるように取り組みます。

(東部沿岸地域への案内誘導を工夫すべきではないか伺う)

A 本市の道路案内誘導については、主要な幹線道路の交差点等において、市内の代表的な地名や主要な公共施設、地域の主な地名などを案内することとしており、産業道

路においても南蒲生や海岸公園を案内する標識を設置しています。今後とも、仙台市道路案内標識設置基準などにより、分かりやすい案内誘導に取り組んでいきます。

Q3 教育のデジタル化と教科書についての在り方を本市も検討すべきではないか。

(教職員のICT活用スキル向上の取り組みを伺う)

A 本市では、全教職員が校内で受講可能なオンライン研修、指導主事が学校のニーズに合わせた支援を行う「サポート訪問」、教育センター職員による「授業づくり訪問」での研修などを行い、教職員のスキルアップを図っている。また、授業等で端末を使う回数の一日あたりの目安を示し、教職員が早く慣れるよう働きかけている。引き続き、教職員のICTスキル向上により、充実した教育活動となるよう取り組んでいきます。

(学校外での端末活用についての見解を伺う)

A 本市では、現時点において、学校内における学習での活用を基本としているが、災害などの非常時に家庭に持ち帰って活用することも想定している。校外での調べ学習や修学旅行などでの活用も可能であると考えているので、まずは学校内で繰り返し端末の活用を進め、学校と情報共有しながら、学校外の学習での端末の効果的な活用を探っていきます。(現時点での評価と課題認識について伺う)

A 国の学習者用デジタル教科書実証事業には本市から小学校68校、中学校34校、中等教育学校前期課程1校の合計103校が参加している。デジタル教科書は拡大表示や、動画や音声の再生が行える等の利点はあるが、事業は今年度開始されたばかりであり、現時点での評価は難しいところである。今後、参加校から実際の使用に際しての意見等を聞くとともに、児童生徒や教職員に求められる活用能力や、ネットワークへの負荷の程度なども確認していきたい。

(紙の教科書とデジタル教科書の在り方について本市も検討しておくべきではないか)

A デジタル教科書には、動画・音声再生等が可能であるといった利点があり、一方で、紙の教科書には、複数ページを行き来して見比べ易い等の利点があるものと認識している。今月には、国が公表した「デジタル教科書の今後の在り方等に関する検討会議」第一次報告において、デジタル教科書の本格的な導入に当たり、紙の教科書との関係を、全国的な実証研究、関連分野における研究の成果や財政負担も考慮しながら、今後詳細に検討する必要がある旨が示された。引き続き、国の動向を注視しつつ、本市における実証事業参加校の状況を確認し、考えを整理してまいります。

(本市独自の分析・検討を実施すべきではないか)

A 今後の教科書検定については、教科書無償給与制度との関係も含め、国において検討が進められていくものと認識している。各教科におけるデジタル教科書の効果や活用方策等は、国の実証事業を通じて、今後明らかになるものと思われる。本市においても、国の方針が示された場合に柔軟に対応できるよう、実証事業での活用状況を分析等しながら、紙とデジタルの最適な組合せや使い分け等について検討していきます。

Q4 合規適正な人事組織の確実な運用をすべきではないか (4年間欠員の副市長を条例どおり補充すべきではないか)

A 本市における副市長の体制については、ここしばらくの間、現行体制による円滑な市政運営に努めてきたところである。両副市長については、私の考えのもと、それぞれ、庁内の取りまとめや対外的な調整を的確に進めてもらい、また、行政課題の多様化・複雑化に伴い、前例がなく、部局横断的に対応せねばならないような事案も増えている中で、緊密な連携の下で、施策や事業を着実に進めることができていると認識をしている。

(欠員の危機管理監を補充すべきではないか)

A 危機管理監については、本市の事務分掌規則によって「危機管理及び防災に関する事務のうち、市長が特に命ずる事務に限り、局長その他の職員を指揮監督する」職責を担っています。この職責については、平時より危機管理、さらには防災に関する事務を所掌する危機管理局長が併せて担う方が、より効果的に危機事案に対応できると考えたところから、別々に配置をするのではなく、危機管理局長が危機管理監を兼ねるといった形にしたものです。

Q5 市長、副市長をはじめ職員へのワクチン接種職域を平素から検討しておくべきではないか。

A このたびのワクチン接種では、国において接種順位を定めており、病院や診療所の医師や看護師等、救急隊員、保健所職員などが、優先接種の対象者と位置づけられています。加えて、保育施設や幼稚園の従事者、小中学校の教職員なども、子供や高齢者などへの更なる感染リスクを低減す

る趣旨から、市独自の優先接種対象者としたところですが、引き続き、これらの対象者への接種を迅速に進めるとともに、市民の皆様の安全安心の確保を念頭に、ワクチン接種の優先的取り扱いの在り方について検討を重ねていきます。

Q6 本市も共同参加している下水からのウイルスの先行検知について伺う。

(研究の取組みへの評価について伺う。また積極的な支援を検討すべきではないか)

A この共同研究では、ウイルス特有のタンパク質を観測することで、検出しにくいウイルスも含め、その濃度をリアルタイムに推定できるシステムを構築することが主眼となっています。本研究により、新型コロナウイルスをはじめとする多様なウイルスの濃度を推定することで、様々な感染症の流行を抑制することができる可能性あり、大変有意義な研究と認識しています。この共同研究は、国の費用により実施しているもの、本市としましては、共同研究の一員として、データの精度向上に寄与するため採水ポイントを増やすなど、積極的に携わっていきます。

Q7 津波警報発表時の津波避難路の信号機の優先操作を提案するがいかがか。

A 津波警報等が発表された場合、速やかに津波避難エリアから外に出ることや、津波避難施設に避難するといった行動を取っていただく必要があります。この際の移動手段としては、本市では原則徒歩ですが、要援護者とその介助者など、車での避難が必要な方が一定数おられることも十分認識しているところです。津波警報等が発表された場合の信号機の制御については、その在り方も含めて、今後機会を捉えて宮城県警に相談していきます。また、「津波からの避難の手引き」等により適切な避難行動を周知することで、過度の車による渋滞の抑制にも引き続き努めていきます。

Q8 連合町内会長有志からの市長選への出馬要請について


A 要請いただいた皆様方は、各連合町内会長協議会などでのそれぞれのご経験をもとに、あくまで個人のお立場から、今回のご要請に至ったものであり、その重みを十分に認識しているところです。

ご意見・ご要望をお寄せください!

プロフィール 仙台市議会議員 **松本 由男**

■略歴: 岩手県軽米町出身、東北大学大学院修了、防衛省定年退官、行政書士、総合危機管理士、防災士
 ■大切にしている言葉: 「不易流行」、「守・破・離」、「今、この時を最良に生きる」

松本由男



ご意見シート!! 必ず、お答えいたします!!

上記ホームページからのメールでも受付いたしております。



FAX.022-355-8645

お気軽に皆様の“生の声”をお聞かせ下さい。

(ご意見・ご要望欄)

お名前 _____ TEL _____ FAX _____

ご住所 _____ MAIL _____

▼FAX送信の際には、この面(A4サイズ)そのままでお送り下さい。